



生育初期の生育が収量を左右します！

大豆の播種適期は、7月中旬までです！

今年は曇りや雨の日は少ないと予想されるので、梅雨の合間に適期播種できるよう作業しましょう。

播種作業のポイント

～これが基本の播種作業～

○ 播種深さ → 3cmの深さで播種
設定は正確に！播種深度は出芽に大きく影響します。

- 荒起こし後に雨が降ると、土が乾かず播種作業が遅れます。耕起は播種直前に行いましょう。
- 出芽を良くし、除草剤の効果を高めるため、砕土はていねいに行います。

～湿害が心配される時(梅雨の合間)～

○ 播種は浅めに → 湿害を受けにくい2cmの深さで播種
○ 播種直後の大雨は、発芽不良に直結します。作業は見合わせましょう。

～干害が心配される時(梅雨明け後)～

- 播種は深めに → 乾燥防止のため播種深度 5cm + 強めの鎮圧
- 荒起こし後間を置くと土壌が乾燥します。播種直前に丁寧に耕起しましょう。
- 土壌が乾燥しないうちに全圃場の播種作業を終わらせましょう。

一回目の中耕培土は遅れずに行いましょう

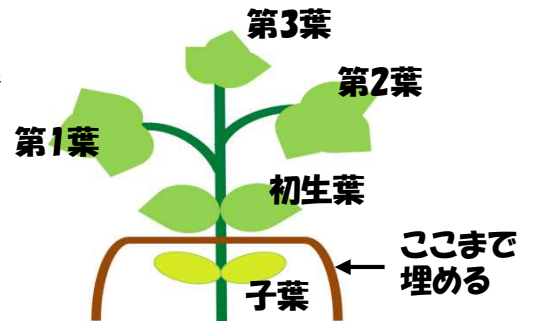
★第1回目中耕培土のイメージ

中耕培土は多収のための大切な作業です。

排水を良くし、土中に空気が入ることで根粒が働きやすい環境にします。また、土がかかった部分から新しい根がでるので倒伏に強くなり、更に雑草を埋め込む効果があります。

時期：第2～3葉が展開する時期

程度：子葉が埋まるくらいの深さ



雑草対策で安定多収

大豆の葉が畝間を覆うまでの間(播種後 1ヶ月程度)雑草を押さえられるかが生育を左右します。播種直後にクリアターンなどの土壌処理剤をきっちり散布したうえ、後発した雑草は下の茎葉処理剤で対策しましょう。

対象雑草	薬剤名	使用時期	使用量/水量(/10a)	使用回数	備考	
土壌処理剤	例) クリアターン乳剤	播種直後 (雑草発生前)	500～800ml / 70～100L	1回	土壌が極端に乾いている場合は、希釈水量を多めに	
茎葉処理剤	イネ科雑草専用	ポルトフロアブル	イネ科雑草3～10葉期 (収穫30日前まで)	200～300ml / 50～100L	1回	枯殺まで約1週間ほど要する。
	広葉雑草専用	大豆バクラン液剤	雑草生育初期～6葉期 ※大豆の2葉期～開花前 (収穫45日前まで)	100～150ml / 100L	1回	重複散布や高温時は薬害が出るので注意